

金融広報中央委員会の活動

(2013 年度<平成 25 年度>)

知るぽると

www.shiruporuto.jp

金融広報中央委員会

(事務局 日本銀行情報サービス局内)

活動概況 ～金融広報活動を巡る最近の環境変化～

国レベルでの金融広報活動推進のための体制整備

1. 金融経済教育推進会議における活動
2. 消費者教育との連携

学校における金融教育の支援

1. 教員・教育関係者向け
 - (1) 教員セミナーの開催
 - 「教員のための金融教育セミナー」の開催
 - 「平成 25 年度 春期研修会」の開催
 - (2) 「金融教育公開授業」の開催支援
 - (3) 金融・金銭教育研究校への支援
 - (4) 「これであなともひとり立ち」の全国発送
 - (5) 教育関係者への情報提供・協力関係の構築
2. 生徒・学生向け
 - (1) 作文・小論文コンクールの開催
 - 「おかねの作文」コンクール
 - 「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール
 - 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール
 - (2) 大学等における講義

世代に応じた情報発信

1. 中高年層向けパンフレットの作成
2. ホームページによる情報発信の充実
3. 親子向けの金融教育イベントの開催
4. 金融・経済講演会への講師の紹介・派遣等
5. 広報誌「くらし塾 きんゆう塾」の発行
6. 「暮らしと金融なんでもデータ」の見直し

都道府県金融広報委員会向けサポート

1. 各種支援
 - (1) 金融教育についての支援
 - (2) 金融・経済講演会への講師派遣
 - (3) 各地教育委員会・自治体等への訪問
2. 情報共有・研修会

調査・情報収集

1. 調査結果・論文の公表

- (1) 家計の金融行動に関する世論調査
- (2) 行動経済学の金融教育への応用による消費者の学習促進と行動改善

2. 国際的な動向に関する情報収集・発信および報告書への貢献等

〔参考〕都道府県金融広報委員会を通じた活動

- 1. 概要
- 2. 金融広報アドバイザー制度
- 3. 金融学習グループ制度
- 4. 金融・金銭教育研究校制度
- 5. 金融教育研究グループ制度
- 6. 金融学習特別推進地区制度

(資料1) 金融広報中央委員会活動の相互連携図

(資料2) 主な金融経済等講演会の開催状況

活動概況

～金融広報活動を巡る最近の環境変化～

近年、金融広報活動を巡って、著しい環境変化が起きています。2008年に発生したリーマン・ショックの教訓を踏まえて、国際的に金融リテラシー（金融に関する知識と判断力）の向上への機運が高まっているなか、国内でも少子高齢化の進展や通信情報技術の急速な発展の下で、国レベルでの金融教育推進のための体制整備をはじめ、消費者教育の面でも金融経済教育と連携して取り組む動きが進んでいます。

これらの動きをもう少し仔細にみますと、2012年6月、G20ロスカボス・サミットで、「金融教育のための国家戦略に関するOECDハイレベル原則」が承認されました。この原則では、金融リテラシーは、個人の重要な生活技術であるに止まらず、市場行動およびブルーデンス規制を補完する重要な役割を担っていること、金融リテラシーを向上させるための金融教育の効率性・妥当性を確保するためには国レベルでの戦略が重要であることが強調されています。また、翌2013年9月のG20サンクトペテルブルク・サミットでは、OECDに対して各国の金融教育に関する国家戦略の策定状況の報告^(注1)が求められるなど、国際的な金融教育推進の機運が大きな盛り上がりを見せています。

(注1) この報告の中で後述の金融庁の金融経済研究会の「報告書」と、金融広報中央委員会が2007年に策定した「金融教育プログラム」が、わが国の国家戦略として位置付けられました。

こうした国際的な機運の高まりを受け、わが国でも、金融庁が2012年11月に「金融経済教育研究会」を設置し、2013年4月に「報告書」を公表しました。同報告書では、4分野15項目からなる「国民が最低限習得すべき金融リテラシー」が明示されるとともに、「今後の金融経済教育の推進にあたり・・・金融広報中央委員会のネットワークを活用し推進していく場（「金融経済教育推進会議（仮称）」）を設置することが適当である」との提言がなされました。これを受けて金融広報中央委員会では、2013年6月に「金融経済教育推進会議」を設置し、金融経済教育の推進策の検討に着手しました（2013年6月、12月に会議を開催）。

また、国内の消費者教育においては、2012年12月の消費者教育推進法施行を受けて設置された「消費者教育推進会議」（事務局：消費者庁、当委員会会長が委員）での審議を踏まえて、2013年6月に「消費者教育の推進に関する基本的な方針」が閣議決定されました。同方針では、金融リテラシーが「自立した消費生活を営むうえで必要不可

欠」であり、「金融経済教育の内容を消費者教育に盛り込むとともに、金融経済教育と連携した消費者教育を推進することが重要」とされ、金融教育を消費者教育の一環として推進していくことが明確化されました。

以上のように、金融広報活動を巡る海外・国内両面での大きな環境変化に伴い、国レベルでの取り組みの重要性の認識が高まる中、当委員会は、「金融リテラシーの向上に向けて、しっかりと対応していこう」を 2013 年度の基本テーマに掲げ、積極的に活動を展開しました。

国レベルでの金融広報活動推進のための体制整備

1. 金融経済教育推進会議における活動

2013年6月、金融広報中央委員会は「金融経済教育推進会議」を設置（同年6月、12月に会議を開催）し、その事務局として会議の運営等を行いました。2013年度の具体的な成果としては、（1）「金融リテラシー・マップ」（以下、「マップ」という）原案の作成、（2）関係諸団体等との連携強化、（3）投資関係情報の提供体制整備等があげられます。なかでも、（1）の「マップ」原案の作成は、多くの関係諸団体にご協力いただいた本年度の中心的作業でした。その後、若干の修正を経て、2014年6月に完成版として公表しました。

すなわち、2013年4月、金融庁が設置した「金融経済教育研究会」が、家計管理、生活設計、金融知識および金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択、外部知見の適切な活用の4分野・15項目に整理した「最低限身に付けるべき金融リテラシー」を公表しました。2013年6月、金融広報中央委員会は、金融経済教育推進会議を設置し、この「最低限身に付けるべき金融リテラシー」を「小学生低学年」、「同中学年」、「同高学年」、「中学生」、「高校生」、「大学生」、「若年社会人」、「一般社会人」、「高齢者」の9つの年齢層に分けて、各層が最低限習得すべき事柄を系統的かつ具体的に示した「マップ」を作成しました。特に、大学生～高齢者までの年齢層について、このような具体的な学習項目が編成されたのは、我が国では初めてのことです。

また、各年齢層において習得すべき（あるいは教育すべき）内容が明確になったため、自治体、業界団体、金融機関、NPO団体等様々な機関・団体が金融教育を行う際の基本線として、これを活用することで、これまで以上に効率的で効果的な金融教育の推進が可能になると考えられます。

ただし、「マップ」のうち、高校生以下の部分については、「習得する目安」と位置付け、今後、学習指導要領等との関係や学校現場の実情を踏まえつつ、更に検討を進めていく扱いとなっています。学校教育の現場では、金融教育のスタンダードとして、2007年に当委員会が取りまとめた「金融教育プログラム」が既に定着しているほか、内容的には「金融教育プログラム」が「マップ」を包含する形となっています。このため、教育現場の混乱を回避し、教育の実効性を高める観点から、高校生以下の学校教育については、両者の整合性を前提としつつ「金融教育プログラム」を基本に推進していくことが適当とされています。今後、2008年に改訂された学習指導要領実施後の状況や学校教育現場の実情等を踏まえて、同プログラムや「マップ」は検討していく方針です。

2. 消費者教育との連携

2012年12月に「消費者教育の推進に関する法律」(以下「消費者教育推進法」という)が施行され、同法に基づき、消費者庁を事務局とする「消費者教育推進会議」が設置されました。「消費者教育推進法」は、消費者教育を総合的かつ一体的に推進することを目的として制定され、「消費者教育推進会議」は消費者教育の総合的、体系的かつ効果的な推進に関して、委員相互の情報の交換および調整を行うことが事務の一つとして規定されました。また、「消費者教育推進法」では、政府が「消費者教育の推進に関する基本的な方針」を定めることとされており、この基本方針を作成する際には、「消費者教育推進会議」等の意見を聴くこととされました。そして、2013年6月には「消費者教育の推進に関する基本的な方針」が閣議決定されましたが、同方針においては、金融リテラシーが「自立した消費生活を営むうえで必要不可欠」とされており、「金融経済教育の内容を消費者教育に盛り込むとともに、金融経済教育と連携した消費者教育を推進することが重要」と明記され、金融教育を消費者教育の一環として推進していくことが明確になりました。こうした動きを踏まえ、都道府県金融広報委員会(以下「各地委員会」という)においては、金融教育・金融知識普及の観点から、学校や地域等における消費者教育の推進体制の整備に貢献するとともに、各地自治体の消費者教育推進計画策定等の取り組みを支援してきています。

なお、当委員会会長は、「消費者教育推進会議」の委員として、2013年3月6日に開催された第1回会議から議論に参加し、2013年度中「消費者教育推進会議」に5回、同会議の小委員会である「消費者市民育成小委員会」(2013年12月設置)にも3回出席し、当委員会および各地委員会による活動の実践事例の紹介等を行いました。

学校における金融教育の支援

1. 教員・教育関係者向け

(1) 教員セミナーの開催

「教員のための金融教育セミナー」の開催

【目的】

児童生徒や大学生におかねとの正しい関係を伝え、現実社会を生きる力を育むために、小学校・中学校・高等学校・大学等の教員および教職を目指す大学生・大学院生を対象として、学校における金融教育の重要性や具体的な実践ノウハウを紹介することを目的としています。

【内容】

本年度は、午前に文部科学省、金融庁および消費者庁による講話のほか、有識者によるパネルディスカッションを行い、午後は小学校・中学校・高等学校・大学の4分科会を設けて、金融教育に取り組まれている先生方による実践発表およびワークショップを実施しました。

(敬称略)

行事名	「2013年度 教員のための金融教育セミナー」
日時・ 場所	2013年7月29日(月) 9:30~16:25 日本教育会館(東京都千代田区)
主催・ 後援	主催：金融広報中央委員会 後援：文部科学省、金融庁、消費者庁、東京都教育委員会、全国公民科・社会科教育研究会、全国家庭科教育協会、日本消費者教育学会、経済教育ネットワーク、日本銀行
募集対象・参加者数	対象：全国の小学校・中学校・高等学校・高等専門学校・高等専修学校・特別支援学校(学級)・大学の教員および教職を目指す大学生・大学院生 参加者：約190名
内容	1. 来賓講話 <来賓> 塩見 みづ枝(文部科学省初等中等教育局 教育課程課長) <概要> 新学習指導要領における金融に関する教育の記述の充実、「消費者教育の推進に関する法律」施行に伴う学校における消費者教育の一層の推進等についてお話しいただきました。 <来賓> 大野 仁(金融庁総務企画局政策課 課長補佐 <古澤 知之 政策課長の代理>) <概要> 4月の金融経済教育研究会報告書の公表等、金融庁における取り組みを紹介され、学校段階から金融経済教育に取り組むことの重要性等についてお話しいただきました。

<来賓> 足立 充（消費者庁消費生活情報課 課長補佐
<長谷川 秀司 消費生活情報課長の代理>）

<概要> 「消費者教育の推進に関する法律」の施行等を踏まえ、金融経済教育と連携した消費者教育推進のための取り組み等についてお話しいただきました。

2. パネルディスカッション

<テーマ> 「学校における金融教育の充実に向けて～消費者教育推進法の施行を踏まえて～」

<パネリスト> 松井 彰彦（東京大学大学院 経済学研究科 教授）
工藤 文三（帝塚山学院大学 人間科学部 教授）
上村 協子（東京家政学院大学 現代生活学部 教授）
西村 隆男（横浜国立大学 教育人間科学部 教授）

<コーディネーター> 金融広報中央委員会事務局 金融教育プラザ
リーダー 岡崎竜子

<概要> 各パネリストより、消費者教育推進の流れと金融教育推進の流れの関係とそれらが学校教育現場へ与える影響、金融教育の実践に体験的な要素を取り入れて効果的に実践を行うための工夫などについて、ご発言いただきました。

3. DVD上映(昼食休憩時)

当委員会のDVD「見てわかる！金融教育 授業の進め方」を各分科会会場で上映しました。

4. 分科会

金融教育に取り組まれている先生方に、小学校・中学校・高等学校・大学の分科会で、実践事例の発表とワークショップの指導を行っていただきました。

小学校分科会

進行およびコメント：澤井 陽介（文部科学省 初等中等教育局 教科調査官）

(1) 「お金の三つの役割の学習」

講師 池田 恭浩（京都教育大学附属桃山小学校 教諭）

(2) 「児童が主体的に学ぶ金融教育の実践～円環型経済教育の流れを基盤とした単元構成の実際～」講師 川崎 理恵（北海道北見市立北小学校 教諭）

中学校分科会

進行およびコメント：西村 隆男（横浜国立大学 教育人間科学部 教授）

(1) 「地理的・歴史的分野に取り入れた経済・金融教育の実践について」

講師 奥村 光太郎（京都府京都市立伏見中学校 教諭）

(2) 「悪質商法からお年寄りを守ろう！」

講師 杉野 浩二（福岡県大牟田市教育委員会 学校教育課 指導主事）

高等学校分科会

進行およびコメント：工藤 文三（帝塚山学院大学 人間科学部 教授）

(1) 「豊かさを分け合う『経済』を考える」

講師 高橋 勝也（東京都立桜修館中等教育学校 主任教諭）

<p>(2)「自立した社会人をめざして 主体的に判断できる消費者になろう～体験的・実践的に学ぶ金融教育～」 講師 岡 恵美子(三重県立松阪高等学校 教諭)</p> <p>大学分科会 進行およびコメント：河野 公子(聖徳大学 兼任講師)</p> <p>(1)「新入生を対象とした消費者教育出張講座」 講師 進藤 恵美(宮城県金融広報アドバイザー)</p> <p>(2)「経済的見方考え方を育てる授業の作り方」 講師 新井 明(上智大学 非常勤講師)</p> <p>5. 資料コーナー 当委員会ならびに関係団体の金融教育に関する刊行物をお持ち帰りいただくコーナーを設置しました。</p> <p>6. 付属プログラム 7月30日(火)に、本セミナー参加者のうちご希望の方を対象として、日本銀行本店の見学およびレクチャー(テーマは「日本銀行の機能と業務」)に参加いただくプログラムを用意しました。約60名の方が参加されました。</p>

(「2013年度 教員のための金融教育セミナー」参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/event/2013/13semi/index.html>

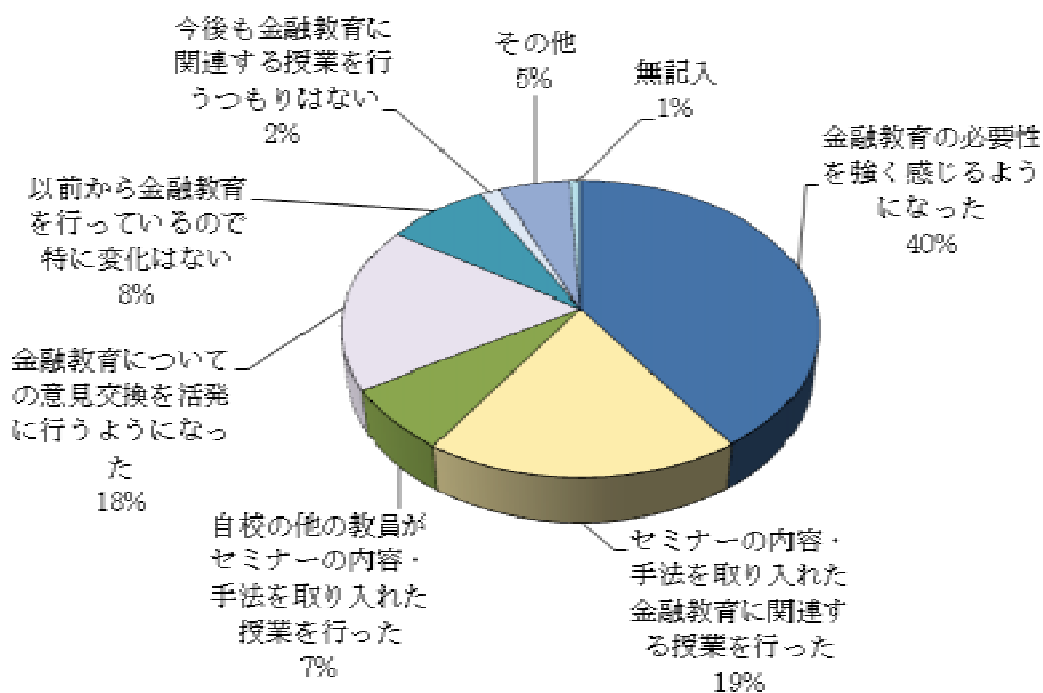
「教員のための金融教育セミナー」のアンケート結果

アンケート概要

セミナーに参加された方に開催の 1 か月後にアンケートを送付し、約 50%の方に回答いただきました。

アンケート結果

回答者のうち 84%の方が、「金融教育の必要性を強く感じるようになった」、「セミナーの内容・手法を取り入れた金融教育に関連する授業を行った」等の前向きな変化があったと回答されました。



「平成 25 年度 春期研修会」の開催

【目的・内容】

学習指導要領改訂で家庭科において重視された生活設計関連分野の指導力を高めるため、家庭科担当教員を対象とした講義および実践指導・研究協議を行いました。

午前中に、日本銀行本店の見学および金融広報中央委員会事務局による講義、午後に、金融教育に取り組まれている先生方による講義と実践指導、実践交流・研究協議および発表を行いました。

(敬称略)

行事名	「平成 25 年度 春期研修会」
日時・ 場所	2014 年 3 月 27 日 (木) 9:30~16:00 日本銀行本店 (東京都中央区)
主催	主催：全国家庭科教育協会、金融広報中央委員会
募集対象・ 参加者数	対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の家庭科担当教員 参加者：約 30 名
内 容	<p>1. 日本銀行本店見学</p> <p>2. 講義 <テーマ> 「学校における金融教育の推進について」 <講師> 金融広報中央委員会事務局 金融教育プラザリーダー 岡崎竜子</p> <p>3. 講義 <テーマ> 「金融教育を切り口にした生活設計・ライフデザインの指導」 <講師> 上村 協子 (東京家政学院大学 副学長)</p> <p>4. 『これであなたもひとり立ち』執筆者による実践指導 <講師> 池山 純子 (元 新潟県立長岡向陵高等学校 教諭)</p> <p>5. 実践交流・研究協議、発表 <指導助言> 上村 協子 (東京家政学院大学 副学長)</p>

(「平成 25 年度 春期研修会」参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/event/2014/14kensyu/>

(2)「金融教育公開授業」の開催支援

【目的】

学校で実施される金融教育関連の実際の授業を、教育関係者、保護者、地域住民等多くの方々にご覧いただくことで、金融教育の重要性を広く理解していただくことを目的としています。

【内容】

金融・金銭教育研究校を中心に、実際の授業を参観していただくとともに、金融教育の専門家による講演等を併せて行う催しです。本事業は2005年度に開始して以来9年目を迎え、全国22か所^(注)の小学校、中学校、中等教育学校、高等学校において開催しました(2005～2013年度累計で235か所において開催)。

(注)このほか、学校の都合により1先が開催を中止。

(敬称略)

開催日	開催校名	公開授業講師	公開授業内容
		講演講師	講演テーマ・内容
2013年 10月25日(金)	山梨県 市川三郷町立 上野小学校	同小学校教員	「お金にへんしん」(1年生対象) 「きゅうしょくとはたらく人たち」(2年生対象) 「見直そう わたしたちの買い物」(3年生対象) 「お母さんのせいきゅう書」(4年生対象) 「考えよう 買い物と暮らし」(5年生対象) 「まかせてね 今日の食事」(6年生対象)
		同小学校教員発表	研究発表「生き生きと学び合う子どもの育成を目指して」～もの・お金・人との関わりの大切さに気づかせる金銭教育を通して～
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プランナー、生活経済ジャーナリスト)	「欲しいモノと必要なモノ」
10月31日(木)	山形県立 新庄南 高等学校	同高等学校教員	「会社の仕事とお金の流れ」(2・3年生対象、総合実践)
		ダニエル・カール (翻訳家・タレント、 山形弁研究家)	「金融教育を考える～日米の生活体験を通して～」

開催日	開催校名	公開授業講師	公開授業内容
		講演講師	講演テーマ・内容
11月1日(金)	福岡県 豊前市立 合岩中学校	同中学校教員	「ゆず祭りを通して、地域活性化について考えよう」(全学年対象)
		同中学校教員発表	研究発表「自らの未来を切り拓く自立した生徒の育成～地域素材を生かした金銭教育を通して～」
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プランナー、生活経済ジャーナリスト)	「知らんとアカン!お金のコワ～い話」
11月5日(火)	佐賀県立 佐賀商業 高等学校	同高等学校教員	「将来を見越した経済計画」(1年生対象、家庭科) 「金融自由化と現代の社会」(2年生対象、社会科) 「賢い消費者であるために」(3年生対象、商業科)
		山田真哉 (公認会計士・税理士)	「今から始める将来設計と資産運用について」
11月6日(水)	長野県 諏訪市立 諏訪南 中学校	同中学校教員	「自分にできることで地域の方の役に立とう」 ～相手意識に立ち、学んだ知識や技術を活用したもののづくりを通して～(1年生対象)
		ダニエル・カール (翻訳家・タレント、 山形弁研究者)	「金融教育を考える～日米の生活体験を通して～」
11月8日(金)	宮城県 登米市立 中津山 小学校	同小学校教員	「おそうじ ぴかぴか だいさくせん」(1年生対象) 「はたらくっていいな」(2年生対象) 「係の仕事を見直そう」(3年生対象) 「家族の一員ならば」(4年生対象) 「共に生きる～仲良し5・5交流をしよう」(5年生対象) 「きれいにしよう クリーン大作戦」(6年生対象) 「お店を開こう」(特別支援学級対象)
		同小学校教員発表	研究発表「進んで役割を果たそうとする児童の育成」
		北俊夫 (国士舘大学教授)	「働くことの意義と金融教育のかかわり」
11月8日(金)	新潟県 上越市立 春日中学校	同中学校教員	「チョコレートを通して考える世界との関わり」(1年生対象)
		加賀屋克美 (有)加賀屋感動ス トアーマネーメン ト代表取締役)	「日米のディズニーで学んだ感動のサービス」

開催日	開催校名	公開授業講師	公開授業内容
		講演講師	講演テーマ・内容
11月8日(金)	福岡県 水巻町立 伊左座 小学校	同小学校教員	「おとしものゼロさくせん」(1年生対象) 「力を合わせて」(3年生対象) 「伊左座お米プロジェクト」(5年生対象) 「比例と反比例」(6年生対象) 「ゆめこうぼうにいこう」(特別支援学級対象)
		同小学校教員発表	研究発表「よりよい生き方を追求し続ける子どもの育成～キャリア発達を促す『練り合う』『振り返る』場の工夫を通して～」
		松本隆博 (社会貢献的エンタ ティナー、シンガーソ ングライター)	「働くことの意味を子どもたちに伝えるために学 校や家庭でできること～“笑顔と素直と感謝”の大 切さ～」
11月11日(月)	茨城県立 鉾田第二 高等学校	同高等学校教員	「直接金融と間接金融について知ろう」(1年生対 象、現代社会) 「Let's design life」(1年生対象、社会と情報) 「お金のトラブルを防ぐために」(1年生対象、家 庭基礎)
		住田裕子 (弁護士)	「契約トラブルから身を守ろう！」
		同高等学校教員発表	研究発表「生きる力を育む金融教育」
11月21日(木)	東京都立 桜修館 中等教育学校	同中等教育学校教員	「より良い社会を築く経済のあり方」(3年生対象)
		齋藤孝 (明治大学文学部 教授)	「だれにとっても大事なお金の話～幸せな社会に 向けて～」
11月21日(木)	愛知県 瀬戸市立 長根小学校	同小学校教員	「みんなの にこにこ だいさくせん」(1年生対象) 「感謝の気持ち」、「まちをたんけん 大はっけん」 (2年生対象) 「ゲームマーケットをしよう」(3年生対象) 「友だちのしょうこ」、「おばあさんのせいきゅう 書」、「カンボジアの子どもたちへ」(4年生対象) 「子牛のたん生」(5年生対象) 「将来の自分を考えよう」(6年生対象) 「お買い物のごっこをしよう」(特別支援学級対象)
		同小学校教員発表	研究発表「勤労の大切さを知り、よりよく生きよう とする児童の育成」
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プランナー、生活 経済ジャーナリスト)	「子どもはお金が好きやねん！今、金融教育が必要 なワケ」

開催日	開催校名	公開授業講師	公開授業内容
		講演講師	講演テーマ・内容
11月22日(金)	茨城県 東海村立 舟石川 小学校	同小学校教員	「使い方を考えて」(1年生対象) 「お金に変身!」(2年生対象) 「節度ある生活」(3年生対象) 「計算の順じょを調べよう」(4年生対象) 「じょうずに使おう」(5年生対象) 「自分の生活を見直そう」(6年生対象)
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プランナー、生活 経済ジャーナリスト)	「子どもはお金が好きやねん~今、金融教育が必要 なワケ」
		同小学校教員発表	研究発表「人やものを大切に、多くの人に役立つ とする意欲を高め、態度を育てる金銭教育」
11月22日(金)	長崎県 長崎市立 桜馬場 中学校	同中学校教員	「企業をつくろう」(3年生対象)
		洞口勝人 (ファイナンシャル・プランナー(CFP))	「学校では教えてくれない身近な経済・お金の話」
		同中学校教員	研究協議
11月26日(火)	京都府立 大江 高等学校	同高等学校教員	「株式学習ゲームのまとめ」(3年生対象、ビジネス 実践)
		同高等学校生徒発表	「インターネットショッピングモール“くるせる” について」
		ダニエル・カール (翻訳家・タレント、 山形弁研究者)	「日本とアメリカの違いから学ぶ 賢い消費者への 道」
11月26日(火)	沖縄県 名護市立 屋部小学校	同小学校教員	「けしゴムの気持ち」(1年生対象) 「上手な買い物をするために」(3年生対象) 「『働き方』について学ぼう」(6年生対象)
		同小学校教員発表	研究発表「自分の生活を見つめ『ものやお金』『いのち』 を大切にする子どもの育成 ~学校・家庭・地域連携で取り組む『金銭教育』『食 育』を通して~」
		あんびるえつこ (生活経済ジャーナ リスト、「子供のお金 教育を考える会」代 表)	「一緒に考えよう! 子ども達の生きる力と『お金』 教育」

開催日	開催校名	公開授業講師	公開授業内容
		講演講師	講演テーマ・内容
11月27日(水)	岐阜県 岐阜市立 岐阜商業 高等学校	同高等学校教員	「金融に関する計算」(1年生対象、情報処理) 「ビジネスと売買取引」(1年生対象、ビジネス基礎) 「ライフプラン」(3年生対象、総合実践) 「経済指標による企業研究」(3年生対象、課題研究)
		住田裕子 (弁護士)	「金融トラブルから身を守ろう」
12月5日(木)	大分県立 津久見 高等学校	同高等学校教員	「ビジネスとお金の関係」(1年生対象、簿記) 「国民経済と金融&経済」(1年生対象、ビジネス基礎) 「電子商取引の活用」(2年生対象、ビジネス情報) 「運転資金って何?」(2年生対象、マーケティング) 「モノの値段について考えよう」(2年生対象、現代社会)
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プランナー、生活経済ジャーナリスト)	「知ってて得するお金のはなし」
12月6日(金)	滋賀県 草津市立 玉川中学校	同中学校教員	「かしこい消費者になろう!!」(3年生対象)
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プランナー、生活経済ジャーナリスト)	「知らんとアカン! お金の話」
12月17日(火)	兵庫県 神戸市立 科学技術 高等学校	同高等学校教員	「ひとり暮らしの部屋探し~初めての大きな契約~」 「健康管理をしっかりと~かしこい食費の使い方~」(2年生対象、家庭科) 「金融のはたらき」(3年生対象、公民科)
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プランナー、生活経済ジャーナリスト)	「知らんとアカン! お金のコワ~イ話」
12月19日(木)	群馬県立 伊勢崎商業 高等学校	同高等学校教員	「金融に関する計算」(1年生対象、情報処理) 「物価の変わり目を見極める」(2年生対象、日本史) 「社会人になるための経済学」(3年生対象、LHR)
		いちのせかつみ (ファイナンシャル・プランナー、生活経済ジャーナリスト)	「知らんとアカン! オッカネ~話」

開催日	開催校名	公開授業講師	公開授業内容
		講演講師	講演テーマ・内容
2014年 1月29日(水)	愛知県立 中川商業 高等学校	同高等学校教員	「決算報告」(1年生対象、簿記) 「外資の森林買収 世界見据え水源保全を」(1年生対象、国語総合) 「スポーツと経済～東京オリンピックの関わり方～」(1年生対象、体育) 「金融に関わる計算」(1年生対象、情報処理) 「株式」(1年生対象、簿記) 「一次関数」(1年生対象、数学) 「ライフデザインとライフプラン～定年後、3600万円の貯金を作るために」(1年生対象、ビジネス基礎) 「Let's enjoy shopping in a different country!」(2年生対象、オーラル・コミュニケーション) 「直接原価計算」(2年生対象、原価計算) 「ごみ処理問題とリサイクルについて」(2年生対象、化学基礎) 「身の回りのお金のリスクに備える方法を学ぼう」(2年生対象、生活技術) 「最適な購入計画を考えよう」(2年生対象、ビジネス情報) 「為替手形 Bill of Exchange を作成する」(2年生対象、英語実務) 「景気変動と金融政策」(2年生対象、日本史A)
		住田裕子 (弁護士)	「金融トラブルから身を守ろう！」
		同高等学校教員発表	金融教育報告会
2月23日(日)	東京都 東村山市立 回田小学校	同小学校教員	「おれたクレヨン」(1年生対象) 「買いもの上手になろう！」(2年生対象) 「もったいないから考えよう」(3年生対象) 「広げよう わくわくワーク」(4年生対象) 「What's money? ～買い物と契約～」(5年生対象) 「我ら、アイデアマン」(6年生対象)
		同小学校教員発表	研究実践報告「よりよく考え、判断し、行動する子の育成～消費者・金融教育から～」
		洞口勝人 (ファイナンシャル・プランナー(CFP))	「学校では教えてくれない身近な経済・お金の話」

(「金融教育公開授業」参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/event/2013/13jugyo/index.html>

(3) 金融・金銭教育研究校への支援

金融・金銭教育研究校（以下「研究校」という）とは、学校等で児童・生徒の発達段階に応じて金融・金銭教育を実践・研究していただくため、各地委員会が学校等を研究校として委嘱するものです。

当委員会および各地委員会では、研究校に対して、カリキュラムの作成や金融広報アドバイザーを含む講師の派遣、授業で用いる教材・資料等の提供、授業を進めるうえでの各種技術指導等の支援を行っているほか、研究・実践に必要な費用の一部を補助しています。

なお、研究校制度の詳細については、後述「〔参考〕都道府県金融広報委員会を通じた活動 4.金融・金銭教育研究校制度」をご覧ください。

(4) 「これであなたもひとり立ち」の全国発送

【目的・内容】

高校での金融教育を一段と普及させることを目的に、生活設計・消費者トラブル等に関する教材「これであなたもひとり立ち」を全国の高等学校等および都道府県等教育委員会に配布（全国6,245先）しました。

「これであなたもひとり立ち」は、高校生をはじめとする若い世代の方々に、ひとり立ちのために必要な経済生活上の基礎知識を身に付けていただくための教材です。

ひとり立ちのためには、進路を決め、自らの選択にしたがって最善を尽くすことが必要ですが、その過程では、自らの進路選択を支える経済基盤を確認することに加え、住居の選択、健康と経済的な側面に配慮した食生活、預金口座の開設、クレジットカードやインターネット取引の安全な利用等のための基礎知識が必要です。

本教材では、こうした知識を、実践的なワークを通じて身に付けていただけるよう工夫されています。例えば、「ひとり暮らしの自立度チェック」でひとり暮らしに必要な具体的な設問に回答し、ひとり暮らし診断を行うコーナーや、高校卒業後、進学・就職していく学生のために、自分の夢実現のための進路をお金によって「見える化」する作業から悪質商法の現実と対策まで、より多くの若い世代の方々が、複雑化する現代社会において、自立した消費者として豊かな生活を送れるよう様々なワークが用意されています。

（「これであなたもひとり立ち」参照先）

<http://www.shiruporuto.jp/teach/yomu/hitori/>

(5) 教育関係者への情報提供・協力関係の構築

各地委員会における学校向けの金融教育支援活動をサポートするため、当委員会事務局スタッフが全国13地区の教育委員会、教育庁等を訪問し、金融教育の進め方や当委員会・各地委員会が実施している金融教育支援のための様々な取組みについて情報提供や意見交換を行いました。

2. 生徒・学生向け

(1) 作文・小論文コンクールの開催

「おかねの作文」コンクール

【目的】

中学生に金融や経済に興味を持っていただき、それを作文に仕上げることを通じて考える力、伝える力を養っていただくことを目的としています。

【内容】

中学生を対象に、テーマは「おかね」に関することであれば「自由」(自由テーマ)として、作文を募集しました。当コンクールは本年度で46回目となります。

【審査員】

(敬称略)

大野 仁	金融庁総務企画局政策課課長補佐
永井 克昇	文部科学省初等中等教育局視学官
尾上 浩一	公益社団法人 日本PTA全国協議会会長
新飯田 潤一	全日本中学校国語教育研究協議会会長
橋口 和	日本銀行情報サービス局金融広報課長
平沢 光弘	金融広報中央委員会事務局次長

【応募状況と審査結果】

本年度は学校応募が347校、個人応募が65件で計3,754編の応募をいただきました(前年度は学校応募390校、個人応募61件で計3,126編)。

審査の結果は以下のとおり、特選5編、秀作5編、佳作50編を入賞作品として表彰しました。このうち、特選、秀作、学校賞^(注)の入賞結果は、次のとおりです(佳作入賞者については当委員会ホームページをご覧ください)。

(注)学校賞は、特選受賞者在籍校にさし上げています。

【表彰作品】

(特選) 5 編

(敬称略)

入賞者	作品名
金融担当大臣賞 沖縄県 石垣市立石垣第二中学校 3年 平田 ころこ	温故知新を目指して
文部科学大臣賞 福岡県 川崎町立川崎中学校 3年 徳重 優花	お金のありがたさ
日本銀行総裁賞 東京都 筑波大学附属中学校 1年 牛嶋 友誠	我が家の経済学
日本PTA全国協議会会長賞 鹿児島県 ラ・サール中学校 2年 大山 農	銀色のペットボトル
金融広報中央委員会会長賞 東京都 東京都立大泉高等学校附属中学校 3年 長谷川 楼奈	留学と私

(秀作) 5 編

(敬称略)

入賞者	作品名
神奈川県 洗足学園中学校 1年 西 由愛花	お金の表情
鹿児島県 ラ・サール中学校 2年 西富 琉之助	募金から学んだこと
千葉県 日出学園中学校 3年 中西 郁	生きたお金の使い方
愛知県 名古屋市立東星中学校 3年 中田 智也	お金の価値
大阪府 吹田市立南千里中学校 3年 渡 春奈	お金の持ち主

(学校賞)

沖縄県 石垣市立石垣第二中学校
福岡県 川崎町立川崎中学校
東京都 筑波大学附属中学校
鹿児島県 ラ・サール中学校
東京都 東京都立大泉高等学校附属中学校

(第46回「おかねの作文」コンクール参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/teach/yomu/saku2013/index.html>

「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

【目的】

高校生・高等専門学校生・高等専修学校生に、金融や経済について関心を持っていただき、自身の考えを論理的に記述することを通じて思考力や表現力を高めていただくことを目的としています。

【内容】

高校生および高等専門学校生・高等専修学校生を対象に、テーマは金融や経済に関することであれば「自由」(自由テーマ)として、小論文を募集しました。当コンクールは「金融と経済の明日」高校生小論文コンクールとして9回を重ねたのち、前年度、名称を「金融と経済を考える」高校生小論文コンクールに変更し、通算11回目を迎えました。

【審査員】

(敬称略)

大竹	文雄	大阪大学社会経済研究所教授
細野	真宏	Hosono's Super School 代表
天野	晴子	日本女子大学教授
古澤	知之	金融庁総務企画局政策課長
永井	克昇	文部科学省初等中等教育局視学官
小林	洋司	全国公民科・社会科教育研究会会長
丹治	芳樹	日本銀行情報サービス局長
本家	正隆	金融広報中央委員会会長

【応募状況と審査結果】

本年度は学校応募が67校、個人応募が73件で計2,234編の応募をいただきました(前年度は、学校応募81校、個人応募33件で計2,062編)。

審査の結果は以下のとおり、特選5編、秀作5編、佳作50編を入賞作品として表彰しました。このうち、特選、秀作、学校賞^(注)の入賞結果は、次のとおりです(佳作入賞者については当委員会ホームページをご覧ください)。

(注)学校賞は、特選受賞者在籍校にさし上げています。

【表彰論文】

(特選) 5 編

(敬称略)

入賞者	作品名
金融担当大臣賞 東京都 お茶の水女子大学附属高等学校 1年 小山 百合香	お小遣い帳のススメ
文部科学大臣賞 東京都 中央大学高等学校 3年 小林 琴衣	価値を決める
日本銀行総裁賞 兵庫県 西宮市立西宮高等学校 1年 岩淵 麗	文化祭を通して学んだこと
全国公民科・社会科教育研究会会長賞 大分県 大分東明高等学校 2年 岩田 美咲	消費活動とメディア
金融広報中央委員会会長賞 岐阜県 岐阜県立大垣商業高等学校 2年 鈴木 颯太	データの価値

(秀作) 5 編

(敬称略)

入賞者	作品名
京都府 立命館宇治高等学校 1年 藤井 奈々	私の姉の生き方から学ぶもの
京都府 同志社女子高等学校 1年 藤井 満里奈	2歳からのエコノミスト
大分県 大分県立日田高等学校 2年 深見 友哉	御用聞きのおすすめ
岩手県 岩手県立不来方高等学校 3年 丸山 風音	復興と次世代のグローバル社会にむけて
東京都 中央大学高等学校 3年 前田 綾香	汚いお金

(学校賞)

東京都 お茶の水女子大学附属高等学校
東京都 中央大学高等学校
兵庫県 西宮市立西宮高等学校
大分県 大分東明高等学校
岐阜県 岐阜県立大垣商業高等学校

(第11回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/teach/yomu/ron2013/index.html>

金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

【目的】

学校教育における「金融教育」の重要性が指摘される中、「金融教育」のあり方に関して、学校教育関係者に関心を高めていただき、また、議論を深める契機としていただくことを目的に、金融経済教育に関する実践報告や研究結果、提言などをテーマとする小論文・実践報告コンクールを実施しました。

【内容】

全国の幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・高等専門学校等教員、教職課程在籍または教職を目指す大学生、大学院生、大学教官など研究者を対象に、金融経済教育に関する実践報告や研究結果、提言などを小論文部門と実践報告部門に分けて募集しました。当コンクールは「金融教育を考える」小論文コンクールとして8回を重ねた後、前年度より、名称を金融教育に関する小論文・実践報告コンクールに変更し、通算で10回目を迎えました。

【審査員】

(敬称略)

阿部信太郎	城西国際大学准教授
宇都宮健児	弁護士
大杉 昭英	国立教育政策研究所初等中等教育研究部長
河野 公子	聖徳大学大学院講師
西村 隆男	横浜国立大学教授
安川 尚宏	NHK制作局第1制作センター経済・社会情報番組部長
丹治 芳樹	日本銀行情報サービス局長
本家 正隆	金融広報中央委員会会長

【応募状況と審査結果】

本年度の応募総数は36編でした(前年度は40編)。審査の結果は以下のとおり、特賞1編(小論文部門)、優秀賞4編(小論文部門・実践報告部門各2編)、奨励賞6編(小論文部門・実践報告部門各3編)を入賞作品として表彰しました。

【表彰論文】

(特賞) 1編【小論文部門】

(敬称略)

入賞者	作品名
京都府 京都教育大学附属桃山小学校教諭 池田 恭浩	買い物をするときの判断基準 ～小学校2年生の授業実践と分析～

(優秀賞) 4編

(敬称略)

入賞者	作品名
【小論文部門】 北海道 北海道教育大学附属函館中学校教諭 郡司 直孝	人口の偏在する現代社会における社会科での金融教育の可能性 ～自らの生活や人生を築き上げることのできる自立した生徒の育成を目指して～
【小論文部門】 神奈川県 神奈川県立厚木商業高等学校教諭 勝山 光仁	次世代型消費者教育の権輿 ～消費者教育推進法が求める新しい消費者教育の実践～
【実践報告部門】 神奈川県 神奈川県立麻生総合高等学校教諭 岩村 夏樹	アベノミクスで学ぶ日本経済
【実践報告部門】 愛知県 碧南市立西端中学校非常勤講師 山中 みゆき	特別支援学級での金融教育 ～できることから分かることまで、はじめの一步～

(奨励賞) 6編

(敬称略)

入賞者	作品名
【小論文部門】 福井県 福井大学大学院修士課程2年 高木 涼	これからの時代に求められる金融教育 パーソナル・ファイナンス教育の可能性
【小論文部門】 京都府 京都市立伏見中学校教諭 奥村 光太郎	中学校における金融・経済教育の推進について
【小論文部門】 長崎県 長崎大学経済学部教授 林 徹	MONOPOLY(ゲーム)によるアクティブラーニング
【実践報告部門】 大阪府 関西外語専門学校国際高等課程教務主事 松尾 祐樹	学びの主体性の発掘 知識と思考の融合を目指して

<p>【実践報告部門】 福岡県 春日市立春日北中学校主幹教諭 森 祐洋</p>	<p>東日本大震災経済復興プランを創ろう ～教室と社会(被災地)を新聞で繋ぐ単元 構成の工夫～</p>
<p>【実践報告部門】 福岡県 福岡県立博多青松高等学校教諭 山崎 乃布子</p>	<p>経済シミュレーションを活用してライフ スタイルの確立をめざす ～経済的視点で「家庭基礎」に対する学習 意欲を向上させる～</p>

(第10回 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/teach/school/kyoin2013/index.html>

(2) 大学等における講義

大学等からの要請に応じ、6つの大学等において、当委員会事務局スタッフが、学生等を対象に金融・経済、ライフプラン、キャリアプラン、消費者トラブル防止等をテーマとする金融教育に関する講義を実施しました。

世代に応じた情報発信

1. 中高年層向けパンフレットの作成

【概要】

金融広報中央委員会では、「金融リテラシー・マップ」の内容を基に、「金融力調査」(2012年9月公表、当委員会調べ)で判明した、中高年層の金融リテラシー上の特性を踏まえ、主に中高年層向けのパンフレット「大人のためのお金と生活の知恵」を作成(2014年3月、約3万部)し、配布しました。

【内容】

「大人のための お金と生活の知恵」は、「金融リテラシー・マップ」の内容に沿って、中高年層の方々が「お金と生活」について知っておくべき知恵をまとめたものです。大人の方のライフスタイルや価値観は多様ですので、本パンフレットでは、なるべく多くの方に役立つような、基本的な知恵をご紹介します。

上記「金融力調査」では、高齢者(65歳以上)の方は、金融に関する知識や判断能力に対する自己評価が高い一方、金融に関する知識の正答率は低めとなっていました。このため、本パンフレットでは、高齢者の方の正答率が低かった内容(リスクとリターン、インフレ、金利計算など)についても説明しています。

なお、若い方にとっても役立つ内容となっています。

【構成】

主な構成は次のとおりです(4章構成)。

お金と生活を「見える化」する

見えた「課題」に向き合う

より豊かで安心できる生活のために

次世代に向けて

(「大人のための お金と生活の知恵」参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/life/arakaruto/otona/>

2. ホームページによる情報発信の充実

【概要】

当委員会では、暮らしに役立つ身近な金融経済情報をタイムリーにかつ幅広く提供するため、1997年度からホームページを開設しています。

本年度は、当委員会が事務局として運営している「金融経済教育推進会議」の取り組みとして、当委員会ホームページをハブに金融教育・消費者教育を推進する諸団体・行政機関との相互リンクを拡充しました。さらに、若年層を意識し、「スマートフォン版」化を進めたほか、一部教育コンテンツの電子ブック化などを実施しました。

【内容】

具体的には、「金融経済教育推進会議」での議論を踏まえて、(1)家計の将来像(暮らし向き)を簡単に「見える化」できるシミュレーションツール「生活設計診断」の内容を充実化したり、(2)お金に関する消費者教育に携わる諸機関・諸団体・NPO法人等が提供している金融学習用の教材や事業を対象者別等に整理し、当委員会ホームページをハブとして、各団体等のホームページに相互リンクする「お金の知恵を学ぶリンク集」をホーム画面に掲示しました。また、(3)当委員会ホームページの「スマートフォン版」化の推進、(4)金融取引のトラブル防止コンテンツ(まんが)である「わたしはダメサレナイ!!」(後述の当委員会広報誌「くらし塾 きんゆう塾」に掲載)の電子ブック形式での提供、(5)YouTube動画(「知るぼるとチャンネル」)による当委員会の活動紹介や金融経済情報の提供、金融経済学習の支援に関する視聴覚教材(動画)のアップロードなど、コンテンツの充実や高画質版の普及も図りました。

以上のほか、刊行物改訂に伴う更新やイベント告知などを合わせて毎月約16件の新着情報を配信し、本年度のアクセス件数は累計810万件、1日平均2.2万件となりました。なお、上記アクセス件数のうち、スマートフォン・タブレット端末によるアクセス件数は174万件、YouTubeでの動画再生回数は23万件となりました。

知るぽると
金融広報中央委員会
(事務局 日本銀行情報センター3階5号)

暮らしに役立つ身近なお金の知
恵・知識の「港:Porto」入り口
です。

Google™カスタム検索

サイトマップ 新着情報配信メール English

金融と経済のしくみ
金融商品や金融取引の基本がわかる！お役立ちデータも満載

暮らしのマネー情報
年金や税金など身近なお金の問題をわかりやすく解説

教える学ぶ
子どもから大人までお金について学べるコーナー

暮らしのお役立ちツール
家計や資産管理に関する便利で簡単な診断ツールやシミュレーション

お知らせ・イベント
知るぽるとからのお知らせや講演などのイベント情報

知るぽるとについて
刊行物のご案内、ビデオ貸出し、入札情報、リンク集など

東日本大震災関連の主な情報源を集めました。

お金の知恵と学びのリンク集
～金融学習のナビゲーター～

キッズ クイズやビデオで、楽しくお金のしくみを学ぼう！

YOUNG マネーの知識を手にいれて、ひとり立ちの一步を踏み出そう。

ファミリー 家計、子育て、住宅など あなたのマネーライフをサポート

シニア 年金、相続、保険など、いきいきとしたシニアライフを支える情報

金融教育 教材や事例など、金融教育関係者の活動を支援する情報が満載！

ユーザー別コンテンツ

お金のQuiz! 今月の問題は金融トラブル編です

おかねおね 親子で楽しもう！

刊行物のご案内 便利な資料がいっぱい

はじめての金融教育 ワークシート付き入門ガイドと役立つ実践事例を紹介

暮らしの知恵 知るぽるとの広報紙です

YouTube 知るぽるとのYouTube公式チャンネル

人気の無料各種計算ツールは「暮らしのお役立ちツール」で、生活設計診断 / 資金プランシミュレーションなど。よくある質問と回答(FAQ)では、当委員会へのお問い合わせのうち、多くいただく質問に回答しています。

スマートフォンでマンガ！電子ブックで金融トラブル防止について学ぼう。
詳しくは以下のリンクまたはQRコードから。

わたしはダマサレナイ！！電子ブック版

- 健康食品送りつけ詐欺
- 高齢者へのアダルトサイト架空請求
- 金の地金取引詐欺
- 「サクラサイト」のメール交換詐欺
- ブランド品販売詐欺
- インターネットショッピング現金化トラブル
- 未成年者のサイトアクセス、契約による高額請求トラブルなど計24話を公開中です。

イベント情報

作文・小論文コンクール(2014年度)作品募集
中 (<http://www.ron2014.jp/>)

- 第47回「おかねの作文」コンクール<締め切り:9月20日>
- 第12回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール<締め切り:9月20日>
- 第11回 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール<締め切り:9月30日>

2014年度「教員のための金融教育セミナー」を開催
(8月・東京)

2014年度 都道府県金融広報委員会の教員向けイベント
(8月・東京)



しるぽると
金融広報中央委員会
(事務局 国土交通省消費者センター212室)

くらしに役立つ身近なお金の知
恵・知識の「港:Porto」「入り口」
です。



Google™ カスタム検索

[サイトマップ](#)
[新着情報配信メール](#)
[English](#)

金融と経済の
しくみ

暮らしの
マネー情報

教える
学ぶ

暮らしの
お役立ちツール

お知らせ
イベント

知るぽると
について

暮らしのお役立ちツール ホーム > 暮らしのお役立ちツール > 生活設計診断

生活設計診断

～夢や目標への道のりを「見える化」してみませんか～

現在の家計収支や貯蓄、借入れなどをもとに、将来の暮らし向きが簡単に診断できます。

まずは一度、おおまかなデータで結構ですので、あなたの現在の家計の状況と今後の生活について入力してみてください。

さらに、解説とケーススタディーをあわせてご活用いただければ、あなたの生活や関心により近い診断結果が得られます。

生活設計診断

入力画面への入り口です。あなたの未来像を診断してみませんか？

生活設計診断の解説

入力画面や診断結果の見本とともに、生活設計診断について解説します。

生活設計診断ケーススタディー

色々な場面での入力方法について紹介します。

見てわかりやすい診断結果

晴れや曇りマークで一目瞭然の暮らし向き天気予報や、年表予測などがその場で表示されます。
(詳しくは解説ページへ)

診断結果の一例

生活設計診断

診断結果

あなたの暮らし向きが、お金の流れが一目瞭然とわかります。
中長期の生活向きがわかります。生活向きが「生活向き」です。
あなたの生活向きの目安は、お金の流れが一目瞭然とわかります。

あなたの暮らし向き天気予報

短期	中長期	長期	超長期

この結果はあくまで目安です。お金の流れが一目瞭然とわかります。

※生活向きはあくまで目安です。お金の流れが一目瞭然とわかります。



ユーザー別インテックス

- キッズ**
- YOUNG**
- ファミリー**
- シニア**
- 金融教育ステーション**

お金の知恵をリンク集

- 刊行物のご案内**
- くらしぽるとゆう塾**
- 金融教育プログラム**

3. 親子向けの金融教育イベントの開催

【目的】

児童・生徒とその保護者を中心に、金融や経済の仕組み、あるいは、暮らしに身近なおかねの知識について、楽しみながら学んでいただくことを通じて、金融教育の必要性についてご理解をいただくとともに、子どもたちが社会の中で生きる力を育てることを目的としています。

【内容】

2005年度より全国各地で開催してきた「金融教育フェスティバル」を2012年度から内容を見直し、「親子のためのおかね学習フェスタ」として実施しています。2013年度も、以下の全国5都市で開催しました。子どもたちには、おかねの仕組みや役割、働くことの大切さ等について楽しみながら学べるよう、中央銀行の仕事体験、カレー作りゲーム、キャラクター・ショーなど体験・参加型のプログラムを用意したほか、親子で一緒に考えながら参加できるおかねクイズや貯金箱を作るコーナーなどを設けました。また、委員団体や官庁などが作成した金融教育に関連する資料を提供するコーナーも設けました。各開催地とも盛況で、全開催地合計で約3,000名の方々にご来場いただきました。

(敬称略)

行事名	「親子のためのおかね学習フェスタ 2013」		
日時 ・ 開催地	2013年8月24日(土)	10:00~17:00	滋賀県大津市
	2013年9月22日(日)	10:00~17:00	山梨県甲府市
	2013年10月14日(月・祝)	10:00~17:00	北海道札幌市
	2013年11月23日(土・祝)	10:00~17:00	大分県大分市
	2013年12月15日(日)	10:00~16:30	東京都渋谷区
主催等	主催： 滋賀 金融広報中央委員会、滋賀県金融広報委員会 山梨 金融広報中央委員会、山梨県金融広報委員会 北海道 金融広報中央委員会、北海道金融広報委員会 大分 金融広報中央委員会、大分県金融広報委員会 東京 金融広報中央委員会、東京都金融広報委員会 共催： 滋賀 滋賀県、大津市 山梨 山梨県、甲府市 北海道 北海道、札幌市 大分 大分県、大分市 後援：文部科学省、消費者庁、金融庁、日本銀行、日本PTA全国協議会		

	<p>滋賀 滋賀県教育委員会、大津市教育委員会 山梨 山梨県教育委員会、甲府市教育委員会 北海道 北海道教育委員会、札幌市教育委員会 大分 大分県教育委員会、大分市教育委員会 東京 東京都、渋谷区、東京都教育委員会、渋谷区教育委員会</p>
<p>内 容</p>	<p>1. 子どものためのおかねのおはなし会 滋賀 <テーマ>「パン屋さんゲーム」に挑戦しよう！ <講師> あんびるえつこ（生活経済ジャーナリスト・「子供のお金教育を考える会」代表）</p> <p>山梨 <テーマ> 働く意味とおかねの関係 <講師> 樋口勝彦（金融広報アドバイザー）</p> <p>北海道 <テーマ> 親子でめざせ！こづかい名人 <講師> 横井規子（金融広報アドバイザー）</p> <p>大分 <テーマ> やりくり上手になろう！ <講師> 衛藤千江美（金融広報アドバイザー）</p> <p>東京 <テーマ> おこづかいはどこからくるの？ <講師> 豊田眞弓（金融広報アドバイザー） （各地のおはなし会の内容については当委員会ホームページをご覧ください）</p> <p>2. おかねの体験学習プログラム <対象> 原則として小学校低・中学年 <定員> 1回 42名（山梨・北海道・大分は4回、滋賀は3回、東京は2回開催） <内容> 中央銀行の仕事やおかねの上手な使い方等について、体験を通して楽しく学びました。</p> <p>（1）仕事体験 参加した子どもたちは、中央銀行の見習い職員として、グループごとに貨幣マスを使ったコインの選別と、模擬銀行券を使ったお札の数を体験し、働いた報酬としてお給料（模擬貨幣）を受け取りました。</p> <p>（2）カレー作りゲーム 仕事体験で得たお給料で、家族のためにカレーの材料を買うというゲームに取り組みました。食材の値段を考えながらリストを作成して買い物に挑戦し、限られた予算の中でのおかねの「使い方」を学習しました。最後に、子どもたちに「おかねの体験学習プログラム認定証」を贈呈しました。 *「カレー作りゲーム」監修 あんびる えつこ</p> <p>3. ガチャピン・ムックのスペシャルショー <対象> 原則として小学校全学年 <定員> 1回 100～300名（東京は2回、その他の会場は3回開催）</p>

	<p><内容> ガチャピン・ムックと一緒に、「お姉さん」と「銭丸先生」からおかねのことを学ぶキャラクター・ショーが行われました。子どもたちは、おかねの歴史や紙幣、貨幣の様々な話題に興味深く聞き入ったり、おかねに関するクイズに答えたりして楽しくおかねのことを学ぶことができました。また、ガチャピン・ムックとの楽しい握手会も行いました。</p> <p>4．おかねの体験広場</p> <p>(1) 貯金箱作り</p> <p><内容> 知るぼるとのキャラクターが描かれた「車」型、「新幹線」型、「はしご車」型の特製貯金箱に、好きな色を塗って組み立てました。</p> <p>(2) おかねクイズ</p> <p><内容> 会場内のヒントパネルを手がかりに、おかねに関する質問に答えるクイズ。10問中8問以上正解した方に「おかね博士認定証」を贈呈しました。</p> <p>(3) お札の秘密体験</p> <p><内容> マイクロスコープやブラックライトで見ることで、お札に用いられている特殊印刷などの最新技術を知っていただきました。</p> <p>(4) おかねについて学ぶコーナー</p> <p><内容> 小判五十両包み、フェイ（石貨）など珍しい貨幣や金塊のレプリカを展示。千両箱の思いもよらぬ重さに驚くなど、体験を通じて、おかねのことを学びました。</p> <p>(5) 模擬一億円パック重さ体験コーナー</p> <p><内容> 100万円の束100個に相当する大きな「かたまり」に、力自慢をかねて、家族でその重さと大きさを体験していただきました。</p> <p>(6) 写真撮影コーナー</p> <p><内容> 一万円札の顔出しパネルと、知るぼるとキャラクターの「矢口ファミリー」が勢ぞろいした立体パネルの2点を用意し、それぞれのポーズで記念撮影をお楽しみいただきました。</p> <p>5．資料コーナー</p> <p><対象> 全ての来場者</p> <p><内容> 主催者ならびに協力団体の金融知識や金融教育に関する資料を提供しました。</p>
--	---

(「親子のためのおかね学習フェスタ 2013」参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/event/2013/13festa/>

子どものためのおかねのおはなし会



おかねの体験学習プログラム

「仕事体験」

「カレー作りゲーム」



「ガチャピン・ムックのスペシャルショー」



おかねの体験広場

「貯金箱作り」

「お札の秘密体験」



4. 金融・経済講演会への講師の紹介・派遣等

【金融・経済講演会への講師の紹介・派遣】

金融広報中央委員会では、全国の各地委員会が開催する金融・経済講演会に対して、講師の紹介・派遣等のサポートをしています。

講師陣は、弁護士、公認会計士、ファイナンシャル・プランナー、大学の先生、ジャーナリスト、作家など顔触れは多岐に亘り、金融経済情勢、金融知識普及、ライフプラン、税・年金、金融トラブル・詐欺防止などテーマもバラエティに富んでいます。全国各地で開催され、参加者も数百名にのぼることも少なくありません。

なお、全国で開催した主な金融・経済講演会については、後述の(資料2)をご参照ください。講演毎に、日時、開催地、講師、講演テーマについて纏めています。

【金融・経済講演会の効果測定】

金融・経済講演会では、例年、可能な範囲で事後アンケートを行い、効果の定量的測定を行っています。取り纏め結果(後述、参考)をみますと、「役立つ」との評価がここ数年、8割を超えています。また、講演会参加者の年齢構成は、60代以上が7割弱を占め、ここ数年、70代以上のウェイトが増加してきています。

【参考】

2013年度金融・経済講演会のアンケート結果

アンケート概要

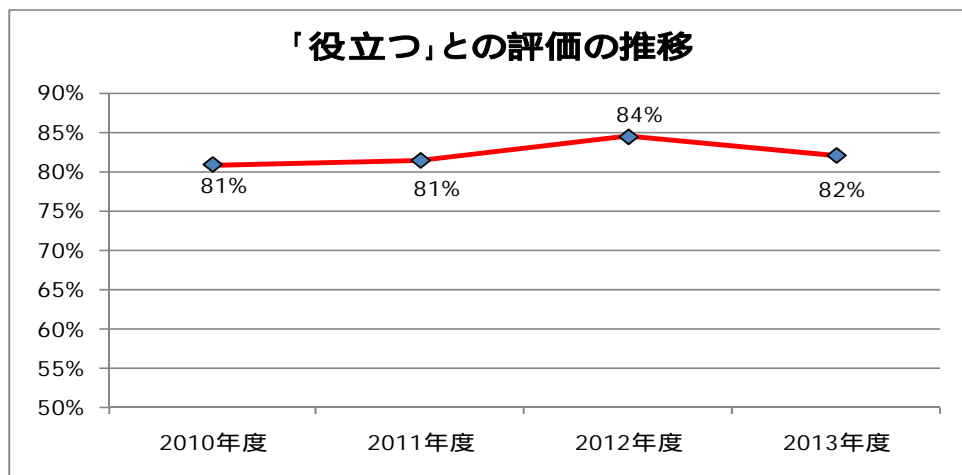
金融・経済講演会に参加された方に、開催当日にアンケートを行い、約7割の方に回答いただきました。

アンケート結果

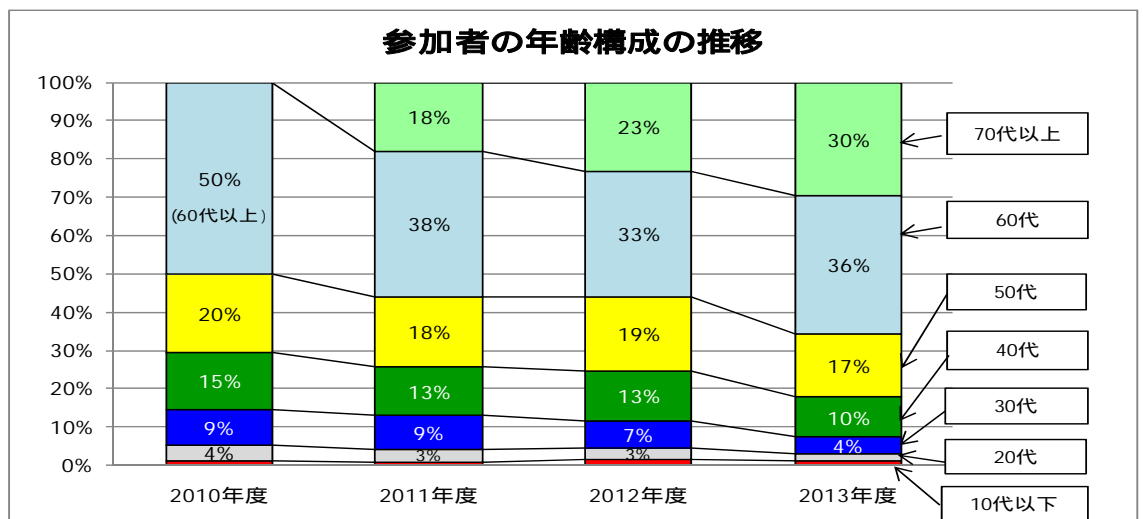
回答者のうち、「役立つ」との評価が8割超と高く、アンケートをはじめた2010年度以降、こうした傾向が続いています。

講演会への参加者は、60代以上が7割弱を占め、年々70代以上のウェイトが増加傾向にあります。

(1) 講演の評価



(2) 参加者の年齢構成



5. 広報誌「暮らし塾 きんゆう塾」の発行

【目的】

「暮らし塾 きんゆう塾」は、金融広報中央委員会の広報誌として、幅広い層を対象に、当委員会の目指す金融教育および金融広報の考え方や当委員会活動をわかりやすく伝えることを目的に、読者のニーズに応じて金融教育・金融知識普及に資する記事を掲載し、四半期ごとに発刊しています。

【内容】

2013年度は、当委員会が行った「金融力調査」(2012年9月公表)のエッセンスを平易に解説するコーナーや、知っているようでよく知らない金融用語を解説した「金融・経済キーワード」などを新設し、読者に分り易く、金融リテラシーが身に付くような誌面作りを行いました。

この間、インターネット利用環境に関する最近の情勢を踏まえ、利用者の利便性を向上させる観点から、「まんが『わたしはダマサレナイ!!』」を当委員会ホームページで電子ブック形式で提供しました。

【構成】

本年度は、次の構成で作成しました。

種類	構成内容
金融知識等の解説	<ul style="list-style-type: none">・そこが知りたい! 暮らしの金融知識 「相続税とその対象となる財産」, 「高齢期に備えた賢いリフォーム術」, 「介護施設の選び方」, 「消費税アップにも負けない『家計の見直し』術」・まんが わたしはダマサレナイ!! 「ブランド品販売詐欺」, 「金の地金取引詐欺」, 「高齢者へのアダルトサイト架空請求」, 「健康食品送りつけ詐欺」・見てわかる金融力調査 「金融に関する考え方と行動の特徴」, 「金融経済に関する知識」, 「海外との比較」, 「世代別の特徴」・金融・経済キーワード 「少額投資非課税制度 愛称『NISA(ニーサ)』」, 「投資信託ってなに?」, 「『もしも』に備える生命保険」, 「72の法則」・働く人のライフ&マネープラン 「自動車購入とカーシェアリング」, 「労災保険」, 「子ども

	を育てるためのお金はいくら?」、「キャリアアップ!資格取得~費用、自己啓発支援制度など」
金融教育の実践事例紹介	・金融教育の現場レポート
生活やおかねに関する話題等	・巻頭インタビュー(生きる力を考える内容等) ・連載エッセイ「経済学的思考のススメ」 ・値段のむかし・いま(夏の食べ物・飲み物、レジャー、お年玉、映画) ・のぞいてみよう 日本の伝統芸能(歌舞伎、相撲、落語、文楽)
当委員会の活動を紹介する記事	・金融広報中央委員会の活動紹介 ・各地委員会事務局員の活動紹介、金融広報アドバイザーの紹介 ・知るぽるとホームページクローズアップ! ・「おかねのね」の紹介

(広報誌「暮らし塾 きんゆう塾」参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/about/kurashijuku/>

6. 「暮らしと金融なんでもデータ」の見直し

【目的】

各個人が金融経済情報を積極的に収集していくことがますます重要となっている中、その手掛かりとして、暮らしと金融に関連した主要データを幅広く提供することを目的とするデータ集です。

【内容】

当委員会ホームページにおいて、分析に利用しやすいデータ・ファイル形式による情報提供を行いました。

(「暮らしと金融なんでもデータ」参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/finance/tokei/stat/>

都道府県金融広報委員会向けサポート

1. 各種支援

(1) 金融教育についての支援

各地における「金融教育公開授業」(1.(2))、教員向けセミナーのほか、金融・金銭教育協議会等の開催支援などを実施しました。

(2) 金融・経済講演会への講師派遣

金融・経済講演会への講師の紹介・派遣等のサポート(4.)のほか、東京都金融広報委員会(事務局：日本銀行情報サービス局)等における金融広報アドバイザーの矯正施設向け金融教育の支援なども実施しました。

(3) 各地教育委員会・自治体等への訪問

教育関係者に金融教育関連の最新情報を提供するとともに協力関係の構築を推進するため、当委員会事務局スタッフが各地委員会事務局と連携しつつ、全国13地区の教育委員会、教育庁等を訪問し、学校における金融教育の重要性や金融教育支援のための取組みについて情報提供や意見交換を行い、各地委員会等における学校向けの様々な金融教育支援活動のサポートに注力しました。

2. 情報共有・研修会

当委員会と各地委員会の活動・運営状況等についての情報共有、意見交換等を行い、効果的な金融広報活動に繋げるため、各地委員会の事務局長・事務局員、金融広報アドバイザーに対して、「事務局長・責任者会議」、「事務局員研修会」、「金融広報アドバイザー研修会」を例年通り開催しました。

また、当委員会事務局スタッフが各地委員会のアドバイザー協議会等に参加し、金融教育を巡る最新の動向等について説明するなど、各地委員会への当委員会事務局スタッフ等の派遣によるサポート等も年間100件近くに及びます。

調査・情報収集

1. 調査結果・論文の公表

(1) 家計の金融行動に関する世論調査

【目的】

本調査は、当委員会が、家計の資産・負債や家計設計などの状況を把握し、これらの公表を通じて金融知識を身につけることの大切さを広報すること、家計行動分析のための調査データを提供すること、の2点を目的として毎年実施しています。

【内容】

本年度は、家計の金融資産・負債や家計設計の状況などについて、全国の二人以上世帯 8,000 世帯を対象に標本抽出調査し、約 5 割の世帯 (3,897 世帯) から回答を得たほか、単身世帯調査については、インターネット調査により 2,500 モニターを対象に調査しました。

《二人以上世帯の調査概要》

調査の内容	(主な調査項目) (1) 金融資産の状況等 金融資産の有無、金融資産保有額、内訳等 (2) 金融負債の状況等 借入金の有無、借入金残高、借入の目的等 (3) 実物資産・住居計画 住居の状況、住宅取得必要資金、この1年以内の土地・住宅の取得、増改築、売却の有無等 (4) 生活設計(老後、消費含む) 家計全体のバランス、過去1年間の家計運営、老後の生活についての考え方等 (5) 決済手段 日常的な支払いの主な資金決済手段、平均手持ち現金残高等 (6) 金融制度等 預金保険制度の認知度、金融機関の選択理由等
調査対象者の抽出方法	層化二段無作為抽出法により全国から500の調査地点を選び、各調査地点から無作為に16の世帯(二人以上世帯)を選ぶことによって計8,000の調査対象(標本)を抽出。
調査の方法	(1) 訪問と郵送の複合・選択式によって調査依頼・回収しました。

	(2) 2013 年調査の実施および結果の集計は、(株) 日本リサーチセンターに委託しました。
調査の時期	2013 年 6 月 14 日 ~ 7 月 23 日
回収状況	標本数 : 8,000 名 回収数 : 3,897 名 回収率 : 48.7 %
調査結果の公表	調査結果は、当委員会のホームページで公表した (2013 年 11 月 7 日) ほか、冊子を作成しました。

《単身世帯調査の概要》

調査の内容	(主な調査項目) 上記の二人以上世帯調査と同じ。
調査対象モニター の選定方法	(選定方法の概要) ・ 20 歳以上 70 歳未満で、単身で世帯を構成する者。 ・ モニター数は 2,500 を有効回収数として確保する設計とし、直近 (2010 年) の国勢調査の単独世帯データにおける地域・年代・男女別の構成比に基づき回答者割付を行いました。
調査の方法	(1) インターネットモニター調査の方法によって、調査依頼・回収しました。 (2) 2013 年調査の実施および結果の集計は、(株) インテージに委託しました。
調査の時期	2013 年 6 月 21 日 ~ 7 月 3 日
回収状況	有効回収モニター数 : 2,500 名
調査結果の公表	上記の二人以上世帯調査と同じ。

(「家計の金融行動に関する世論調査」 参照先)

《二人以上世帯調査》

http://www.shiruporuto.jp/finance/chosa/kyoron_futari/

《単身世帯調査》

http://www.shiruporuto.jp/finance/chosa/kyoron_tan/

(2) 行動経済学の金融教育への応用による消費者の学習促進と行動改善

【目的】

本論文は、行動経済学の応用により、金融教育の効果向上を図るための具体例を紹介したもので、2013 年 11 月に当委員会事務局スタッフが取り纏め、公表しました。

【内 容】

海外では、行動経済学に基づいて消費者の金融行動を見直し、そこから得られる知見を金融教育の効果向上に役立てようとする動きが活発化しつつあります。

本論文では、行動経済学の金融教育への応用による消費者の学習促進や行動改善について、「行動喚起」、「意欲向上」、「行動持続」の三つの目標行動に即した具体例を紹介しています。

こうした手法の活用は、無関心層への働きかけや、行動の意思と実際の行動の間のギャップの存在といった課題に対しても、新たな視点を提供してくれるものと期待されます。

(「行動経済学の金融教育への応用による消費者の学習促進と行動改善」参照先)

<http://www.shiruporuto.jp/teach/consumer/report5/>

2 . 国際的な動向に関する情報収集・発信および報告書への貢献等

【目 的】

当委員会では、(1) 海外における金融教育・金融知識普及活動を巡る状況を紹介することを通じて金融知識を身につけることの大切さを広く国民に伝えるとともに、(2) 当委員会の活動の参考とするため、金融教育に関する国際会議への参加を通じて、海外における金融教育の動向に関する情報収集・調査を行っています。また、(3) わが国における取組みを海外諸国における金融教育推進の参考に供するため、国際機関等の会議に積極的に参加するほか、海外政府関係者の来日に際し情報を提供しています。

【内 容】

本年度は、当委員会事務局スタッフが OECD 主催の「金融教育に関する国際ネットワーク会議」等の国際会議に出席し、各国における金融教育に関する活動状況について情報収集を図るとともに、わが国における金融教育に関する情報を提供し、参加者との意見交換に努めました。

この間、2013 年 9 月の G20 サンクトペテルブルク・サミットに、各国の国家戦略の策定状況に関する報告書が提出され、この中で「金融経済教育研究会」報告書と当委員会の「金融教育プログラム」が、わが国の金融教育に関する国家戦略として位置付けられました。なお、当委員会は、金融庁と並んで当該報告書の作成に協力しました。

〔参考〕都道府県金融広報委員会を通じた活動

1. 概要

【目的】

金融広報中央委員会として、各地委員会の活動を支援することを通じ、全国での金融教育の推進ならびに金融に関する正確な知識等の普及を図ることを目的としています。

【内容】

当委員会の活動は、各地委員会と密接に連携しながら推進されています。各地委員会は、都道府県、地方財務局・財務事務所、日本銀行支店・事務所や、銀行、信用金庫、信用組合、証券会社、保険会社などの業界団体等から選出された委員から構成され、日常的な活動は主に、県または日本銀行支店・事務所に置かれている事務局によって行われています（資料1参照）。

各地委員会では、当委員会と連携しながら、金融に関する正確な知識等を当該地域の方々に幅広く普及させるため、独自の活動を展開しています。各地委員会の活動は、地域毎に異なる歴史的な経緯や活動条件を踏まえ最適な方法で活動を展開しているため、内容は必ずしも一律ではありませんが、「金融教育の支援」と「金融知識の普及」を軸に活動を展開している点では同じです。

【金融広報中央委員会による各地委員会への支援の概要】

各地委員会では、各都道府県民の方々への啓発資料の提供のほか、大規模な講演会・シンポジウム、中小規模の講座やセミナーの開催といった活動にも積極的に取り組んでいます（資料2参照）。こうした活動を支えるものとして、（1）金融広報アドバイザー制度、（2）金融学習グループ制度、（3）金融・金銭教育研究校制度、（4）金融教育研究グループ制度、（5）金融学習特別推進地区制度があります。当委員会では、これらの活動や制度が有効かつ円滑に運用されるように資金的な援助や様々なノウハウを提供しているほか、資料・教材等を配付するなどの支援を行っています。

各制度の概要は以下のとおりです。

2. 金融広報アドバイザー制度

金融広報アドバイザー制度とは、地域の方々に対し、中立公正な立場から、客観的に正確な金融関連知識を直接提供するために、各地委員会が金融経済に関する有識者

などを金融広報アドバイザーとして選任し、当委員会が委嘱する制度です。各地委員会で選任・委嘱されている金融広報アドバイザーは、2013年度末時点で473名です。金融広報アドバイザーは、全国各地で、金融・経済の仕組み、資産運用、生活設計、金融商品、年金、保険、金融トラブル、金融・金銭教育等をテーマにした講演会や講座・講習会の講師をはじめとする広報活動で活躍しています。

なお、当委員会では、金融広報アドバイザーの活動に関する情報や資料を各地委員会に提供するなどの支援を行っています。

3．金融学習グループ制度

金融学習グループ制度とは、金融経済知識の習得のために自主的かつ意欲的に学習活動に取り組むグループに対して、各地委員会が活動目的、学習内容を吟味したうえで、原則として1年間（活動実績等を踏まえて2回まで延長可）「金融学習グループ」として認定し、金融広報アドバイザーの派遣や活動資金の一部援助などを行う制度です。2013年度末時点で全国で47先が金融学習グループとして認定され、金融経済の基礎知識、金融商品のしくみ、ライフプランの立て方、年金・税金・保険のしくみ、子どもへの金銭教育などをテーマに学習活動が行われています。

なお、当委員会では、各地委員会が行う金融学習グループへの資金的援助を行っています。

4．金融・金銭教育研究校制度

金融教育研究校あるいは金銭教育研究校（以下「研究校」という）制度とは、学校や幼稚園において、金融や金銭に関する具体的な教育を実践し、その効果的な方法を研究していただくことを目的に、各地委員会が幼稚園または学校を1年ないし2年間、研究校として委嘱するものです。高等学校、中学校、小学校等において、金融・経済に関する正しい知識の習得に力点を置くものを「金融教育研究校」、中学校、小学校、幼稚園等において、金銭や物に対する健全な価値観の養成に力点を置くものを「金銭教育研究校」として委嘱しています。当委員会および各地委員会では、研究校に対して、カリキュラムの作成や金融広報アドバイザーを含む講師の派遣、授業で用いる教材・資料等の提供、授業を進めるうえでの各種技術指導等の支援を行っているほか、研究・実践に必要な費用の一部を補助しています。

2013年度末時点で全国39都道府県で計109校の研究校が委嘱され、その成果等に関する情報については、各地委員会によって開催される金融・金銭教育協議会や金融教育公開授業における発表等を通じて共有され、活動内容の向上に役立てられています。

(参考) 研究校の委嘱状況

	高等学校	中高一貫	中学校	小中併置校	小学校	幼稚園
金融教育研究校	40校	1校	16校		7校	
金銭教育研究校			7校	1校	31校	6校

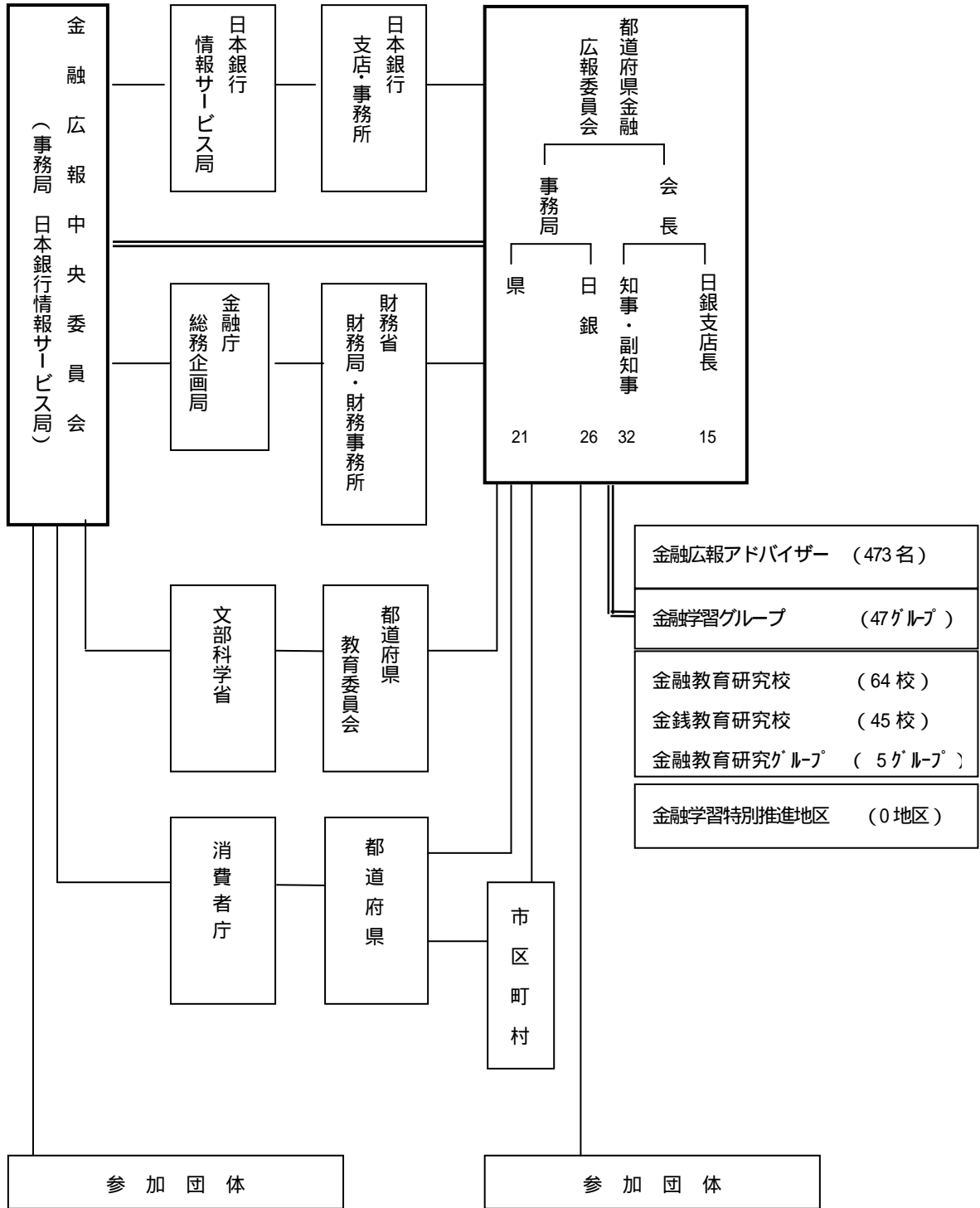
5. 金融教育研究グループ制度

金融教育研究グループ制度とは、主として高等学校、中学校において公民科、家庭科、商業科や総合的な学習の時間等を担当する教員が、学校横断的な研究会・グループ等により、金融教育の実践・研究活動を行う際、金融教育研究校に準じて研究を委嘱し、当委員会および各地委員会が、ノウハウや活動資金の一部を援助する制度です。2013年度末時点で全国5県において5グループが金融教育研究活動に取り組んでいます。当委員会および各地委員会では、この制度を通じ、実際に教育現場を担っておられる先生方に金融教育への理解を深めていただくとともに、より効果的な授業が幅広く行われるように支援しています。

6. 金融学習特別推進地区制度

金融学習特別推進地区(以下「特区」という)制度とは、市区町村またはその中の一定地域が、各地委員会および当委員会と一体となって、地域ぐるみ(住民、学校、PTA、各種団体など)で継続的な金融学習への取り組みを推進することを目的に、2004年度に設けられた制度です。同制度の委嘱は各地委員会が行い、委嘱期間は原則として2年間です。2013年度は特区の委嘱がありませんでした。

(資料1) 金融広報中央委員会活動の相互連携図



< 2014年3月31日現在 >

(資料2) 主な金融・経済講演会の開催状況

(敬称略)

日 時	開催地	講 師 名	テ ー マ
2013年 5月22日(水)	熊本県	菊地 幸夫 (弁護士)	「だます方が悪いのか だまされる方が悪いのか」
5月22日(水)	佐賀県	いちのせ かつみ (ファイナンシャル・プランナー、 生活経済ジャーナリスト)	「おもろく生きよう！人生100年を豊 かにする生活設計」
5月31日(金)	栃木県	住田 裕子 (弁護士)	「まさか私も被害者に！？」 ～身近な消費者トラブルの傾向と対 策～
6月5日(水)	岩手県	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科 教授、総合研究開発機構<NIRA> 理事長)	「これからの日本と世界」 ～激変する時代の中で東日本大震災 からの復興を考える～
6月29日(土)	京都府	宮川 俊二 (ニュースキャスター)	「キャスターから見た日本」 ～消費者としてできること～
7月3日(水)	東京都	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科 教授、総合研究開発機構<NIRA> 理事長)	「これからの日本の金融・経済の動き を考える」～増税・社会保障負担増で 生活はどう変わるか～
9月28日(土)	富山県	生島 ヒロシ (フリーアナウンサー、 ファイナンシャル・プランナー)	いくつになってもチャレンジ精神！ 「心と体と財布の健康」でイキイキ人 生
10月5日(土)	北海道 旭川市	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科 教授、総合研究開発機構<NIRA> 理事長)	「時代の先を読む！日本経済のこれ から」
10月5日(土)	青森県	大竹 のり子 (FP、エフピーウーマン代表)	「人生を豊かにするお金との付き合 い方」
10月12日(土)	滋賀県	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科 教授、総合研究開発機構<NIRA> 理事長)	「日本経済のゆくえ」
10月12日(土)	岐阜県	菊地 幸夫 (弁護士)	「菊地流・魅力的人生のススメ」 ～消費者問題の実態～

日 時	開催地	講 師 名	テ ー マ
10月14日(月)	北海道 帯広市	高橋 伸子 (生活経済ジャーナリスト)	「大事なお金の活かし方、守り方」 ～自分らしく生きるために～
10月18日(金)	神奈川県	宮川 俊二 (ニュースキャスター)	「今、求められる消費者の自立」 ～キャスターの視点から～
10月19日(土)	静岡県	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科 教授、総合研究開発機構<NIRA> 理事長)	「キーワードで分かる日本経済」
10月23日(水)	北海道 札幌市	山田 真哉 (公認会計士、税理士、作家)	「お金のツボ」 ～家計・ライフプランニングに役立つ 話～
10月26日(土)	岡山県	加賀屋 克美 ((有) 加賀屋感動ストアー マネジメント代表取締役)	「働くことの喜びはディズニーで教 わった」
10月26日(土)	沖縄県	洞口 勝人 (ファイナンシャル・プランナー)	これだけは絶対に知っておきたい！ 『金融・経済・投資・資産運用』の話
10月28日(月)	長野県	熊野 英生 (第一生命経済研究所首席エコ ノミスト)	「サラリーマン世帯の所得・社会保 険・税負担を考える」
10月29日(火)	兵庫県	大竹 文雄 (大阪大学(博士)大阪大学社会 経済研究所教授)	「暮らしに役立つ行動経済学 正しく判断するために知っておく べきこと」
10月30日(水)	秋田県	宮川 俊二 (ニュースキャスター)	「今、求められる消費者の自立」 ～ニュースキャスターの視点から～
11月10日(日)	島根県	幸田 真音 (作家)	「経済小説に経済の“いま”を読む」
11月14日(木)	千葉県	齋藤 孝 (明治大学文学部教授)	「だれにとっても大事なお金の話」
11月23(土)	茨城県	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科 教授、総合研究開発機構<NIRA> 理事長)	「キーワードで分かる日本経済」 ～アベノミクスの行方は？～

日 時	開催地	講 師 名	テ ー マ
11月28日(木)	高知県	ダニエル・カール (タレント、翻訳家)	「オラの日米おもしろお金講座」
11月30日(土)	香川県	宮川 俊二 (ニュースキャスター)	「キャスターから見た日本」 ～今、求められる消費者の自立～
12月5日(木)	石川県	宮川 俊二 (ニュースキャスター)	「キャスターから見た日本」 ～北陸新幹線を契機とした地域の活性化～
2014年 1月22日(水)	愛知県	ダニエル・カール (タレント、翻訳家)	「オラの日米おもしろお金講座」
1月25日(土)	宮城県	池尾 和人 (慶応義塾大学経済学部教授)	「アベノミクスの1年と日本経済の将来」
1月26日(日)	長崎県	生島 ヒロシ (フリーアナウンサー、 ファイナンシャル・プランナー)	「人生を楽しむ秘訣」 ～心と体と財布の健康～
2月9日(日)	愛媛県	見城 美枝子 (青森大学社会学部教授、エッセイスト)	「変わりゆく時代の暮らしと金融」
2月21日(金)	大分県	坂東 眞理子 (昭和女子大学学長)	「品格あるお金との付き合い方」
2月27日(木)	福島県	菊地 幸夫 (弁護士)	「菊地流 魅力的人生のススメ」
3月3日(月)	山梨県	住田 裕子 (弁護士)	「知っておきたい!金融トラブル」
3月3日(月)	福岡県	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科 教授、総合研究開発機構<NIRA> 理事長)	キーワードでわかる日本経済
3月8日(土)	奈良県	住田 裕子 (弁護士)	「身近な金銭トラブル」